

# 雲仙・普賢岳大火砕流から30年

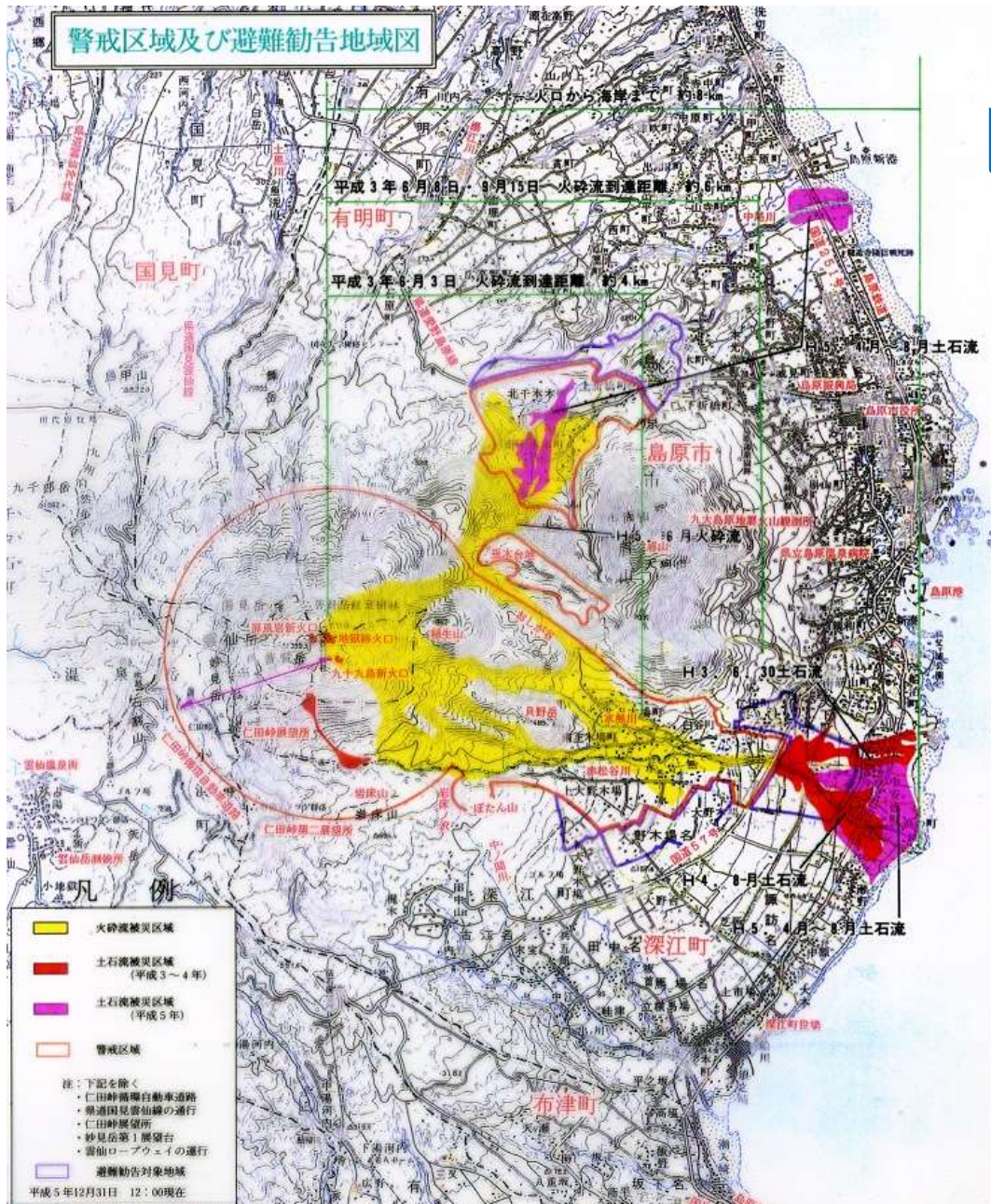


1991年6月3日の火砕流。規模が大きく、上木場地区で取材していた報道陣など、43人の犠牲者がでた（読売新聞社提供）



口絵2 1991年8月26日雲仙普賢岳噴火による深江町上空をおおう火砕流の噴煙（毎日新聞社提供）

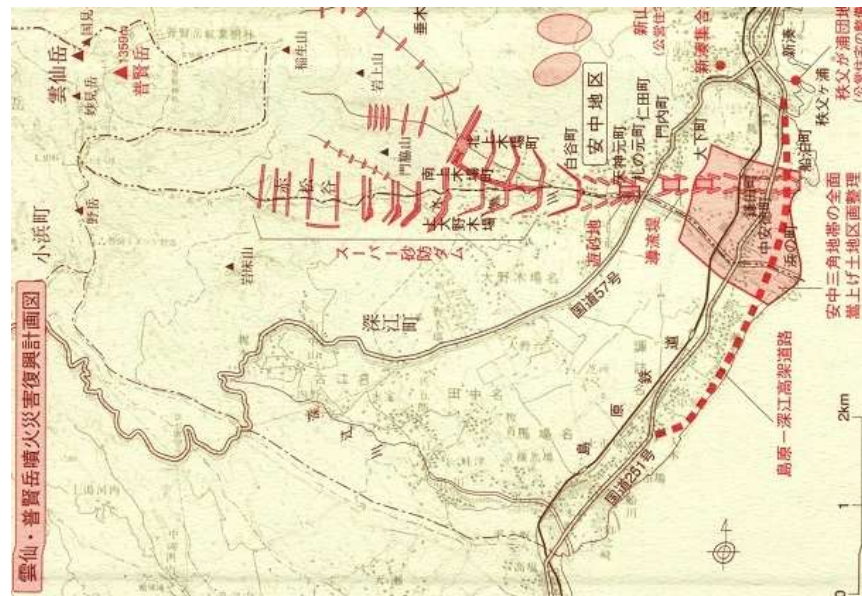
# 1993年12月31日 時点の災害情報



山側の火砕流と海側の土石流堆積物  
相次ぐ土石流は海岸にまで達する(1992.4.29.)

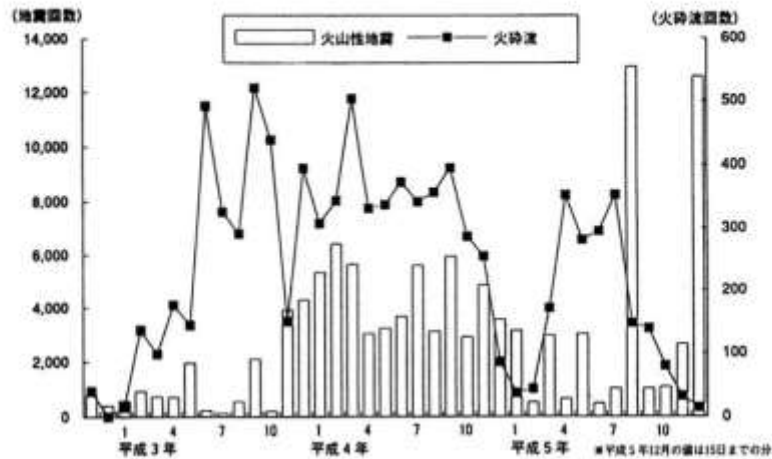


グーグルマップ(航空写真)で見た水無川沿いの火砕流・土石流の被災地域の現在



雲仙・普賢岳噴火災害の現況図(左)と復興計画図(右), 鐘ヶ江管一著『普賢, 鳴りやまず』より

火山性地震と火砕流の発生頻度

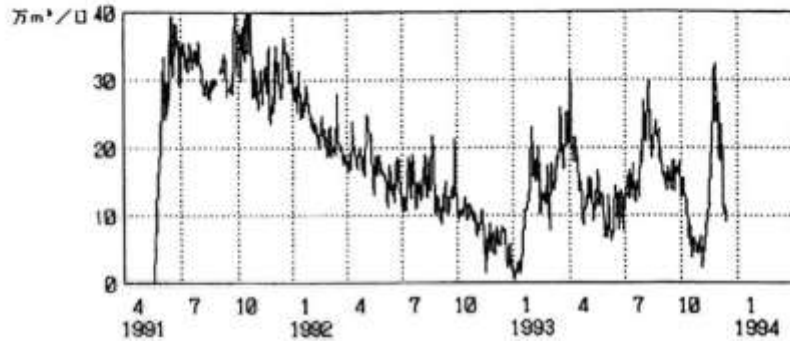


# 普賢岳の火山活動は約3年間継続した！

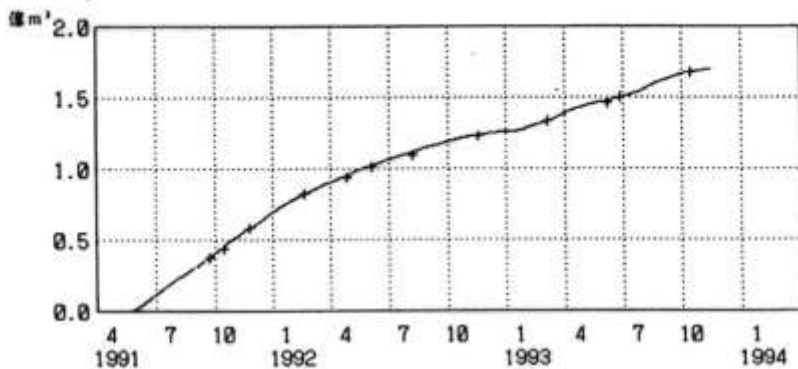


バラバラに割れザクロ状になった溶岩ドーム 1991.5.23.

溶岩ドームへの溶岩供給量推定 (出所：九州大学理学部島原地震火山観測所、東京大学地震研究所)



溶岩噴出量の推定 (出所：同上)



屏風岩の裏側に辛うじて原型をとどめる普賢神社 1992.3.11.

# 1人死亡、30人不明

## 普賢岳で大い砕流続発

### 住民ら20人重軽傷 民家約30戸を焼失

【東京】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。



阿雲を突き抜け、積石のふもとを襲う火砕流→三日午後五時55分、島原市赤松川流域のヘリから

【島原】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。



【島原】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。

### 早かった避難解除 市対策本部、甘い判断

【島原】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。

### 災害見舞金を受け付け

【島原】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。

### 5選不出馬を表明

【島原】雲仙・普賢岳(二、三五九七)で三日午後四時すぎ、地獄釜火口東側斜面からこれまで最大規模の火砕流が連続発生、黒煙を巻き上げ島原市赤松川流域の民家を二気のみみだした。同川流域に警戒に当たっていた市消防団員の警察官、報道陣などが火砕流に巻き込まれ、一人が死亡、三十人が重軽傷を負った。全焼または一部焼失の民家も約三十戸が焼失した。付近一帯で民家火災も発生した。先月二十四日に火砕流が発生して以来、死者が出たのは初め。寛政四年(一七九二)島原大変以来の大惨事となった。

**長崎新聞**

発行所：長崎新聞社  
 〒850-0001 長崎県長崎市本町1-1-1  
 電話：(095)241-1111  
 代表取締役社長：小宮正典  
 編集長：小宮正典  
 発行部：小宮正典  
 印刷部：小宮正典  
 販売部：小宮正典  
 読者サービス部：小宮正典  
 広告部：小宮正典  
 経理部：小宮正典  
 庶務部：小宮正典  
 総務部：小宮正典  
 労務部：小宮正典  
 施設部：小宮正典  
 印刷部：小宮正典  
 発行部：小宮正典  
 販売部：小宮正典  
 読者サービス部：小宮正典  
 広告部：小宮正典  
 経理部：小宮正典  
 庶務部：小宮正典  
 総務部：小宮正典  
 労務部：小宮正典  
 施設部：小宮正典

雲仙・普賢岳大火砕流を報じた、災害翌朝の地元紙・長崎新聞1面